1.　評価結果概要表

作成日　平成21年3月9日

【評価実施概要】

事業所番号	0390800043
法人名	社会福祉法人　とおの松寿会
事業所名	グループホーム　長寿庵
所在地	〒028-0521 岩手県遠野市材木町2－22 （電　話）0198-63-1328

評価機関名	特定非営利活動法人　いわての保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0021　岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号		
訪問調査日	平成20年12月5日	評価確定日	平成21年3月9日

【情報提供票より】（平成20年11月19日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成　19 年　5 月　10 日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計　9　人
職員数	20　人	常勤　19 人，非常勤　1 人，常勤換算　8.3 人

（2）建物概要

建物構造	木　造　造り
	2 階建ての　2 階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	30,000　円		その他の経費（月額）	光熱費等1万円程度
敷　金	無			
保証金の有無 （入居一時金含む）	無		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	300　円	昼食	300　円
	夕食	350　円	おやつ	100　円
	または1日当たり	円		

（4）利用者の概要（11月19日現在）

利用者人数		9 名	男性	1 名	女性　8 名
要介護1		6　名	要介護2	2　名	
要介護3		0　名	要介護4	1　名	
要介護5		0　名	要支援2	0　名	
年齢	平均	81.2 歳	最低	73 歳	最高　90 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	六角牛病院(精神科 内科)、川上医院(胃腸科 内科)、守口医院(脳神経外科 内科)

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所はJR遠野駅から徒歩7分の場所にあり、電車の往来やホームの乗降客を見渡すことができる。商店街にほど近く、協力医療機関が隣接しており、利用者が安心して生活できる環境にある。当事業所の特徴は、階下に小規模多機能事業所を併設しており、その職員も利用者と馴染みの関係にあるため、多くの職員で様々な状況に柔軟に対応できることである。開設から約2年が経過するなかで、事業所の在り方について職員一人ひとりの意見と理解を大切にして取り組み、また地域に対する事業所の周知活動や、地域の楽しみの場づくりなどを実行していることなどから、利用者または家族のみならず、地域住民からの信頼が着実に得られている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	**前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）** 前回の外部評価では事業所としての理念の独自性が話題に上がり、それ以降職員一人ひとりの意見をベースとしながら、時間をかけて検討が行われている。 **今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）** 施設長から会議で全職員に評価について説明し、職員一人ひとりが自分たちの言葉で項目を記入したことによって、自己評価を行うことの意義や、何を求められているかを考え、理解する機会となっている。評価で見いだされた課題は事業計画に反映させ取り組んでおり、権利擁護や虐待などをテーマとした研修につなげている。
重点項目②	**運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）** 会議は定期的に行われており、利用者家族や地域の代表者、事業所との間で意見交換が行われている。地域を代表する委員からは防災へのアドバイスや、利用者の事業所前の道路への飛び出しを心配する意見等が出されている。また、事業所に関する意見交換のほか、地域の課題について、近隣地区は市街地の空洞化が進み、高齢者世帯が多くなり心配なこと等の相談が寄せられ、相互の意見や要望を話し合う場となっている。
重点項目③	**家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）** 所内のポスト設置や、家族から要望等受付用紙を郵送してもらうような工夫を行い、会議で話し合ったうえで、運営に反映することとしている。これまでに、職員の顔が分かりにくいとの意見を受けて、お便りに職員の顔写真を掲載する等の対応をしている。事業所は、頻繁に面会に来ることのできない家族の事情を理解しながら、一つ一つのコミュニケーションを大事にする姿勢があり、さらなる家族との協働関係づくりに期待したい。
重点項目④	**日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）** 夏に実施した地域交流会には近隣住民や職員家族が参加し、好評のため地域から定期的な実施が期待されている。また市全体を地域と捉えるなかで、職員がお祭りに参加したことや、地区の一人暮らし老人交流会に参加し交流を図ったことにより、事業所への関心が高まり、地区の方々が事業所に立ち寄るような関係へと発展している。

2.　評価結果（詳細）

確定日　平成21年3月9日

（　　部分は重点項目です　）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を母体として、事業所独自の理念を見出すことに取り組んでいる。会議で理念について話し合い、さらに事業所の目指す「安心できる私の暮らし」について考えるためのグループワークを行っているところである。	○	事業所の理念を職員一人ひとりの考察を土台として作っていくプロセスと、全員が「考え続ける」ことを重視する姿勢は、職員の意識向上や日々の発見において非常に意義があると思われる。今後もていねいな話し合いを継続してほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人全体の理念は、毎日心構えとして読み合わせている。またその理念の実践という観点から、抽象的な言葉を職員個々の具体的な言葉に置き換えるグループワークを行っており、利用者にとってホームでの生活が居心地よい場所と感じられるには何が大切か、日々のケアにおける職員の意識が高められている。	○	事業所の理念はまだ明確になっていないが、グループワーク等により一人ひとりからの率直な意見が出されている。職員全員でのグループワークはなかなか時間がとれない状況にあるが、また実施したいと考えており、今後も創造的な取り組みが期待される。
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏に実施した地域交流会には近隣住民や職員家族が参加し、好評のため地域から定期的な実施が期待されている。市全体を地域と捉えるなかでは、職員がお祭りに参加することにより、交流の広がりに努めている。また近隣の保育園とも交流があるほか、近所の子どもが立ち寄ることもある。	○	これまで近隣地区では主だった地域活動がない状況であったが、開設以降の事業所の活動が徐々に注目を集め、住民から活動の中心として期待も寄せられるようになってきた。それらの期待も事業所の理念を検討する上で貴重な材料と考えられる。
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	施設長から会議で全職員に評価について説明し、職員一人ひとりが自分たちの言葉で項目を記入したことによって、自己評価を行うことの意義や、何を求められているかを考え、理解する機会となっている。評価で見いだされた課題は事業計画に反映させ取り組んでおり、権利擁護や虐待などをテーマとした研修につなげている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域を代表する委員からは防災へのアドバイスや、利用者の事業所前の道路への飛び出しを心配する意見等が出されている。また、事業所に関する意見交換のほか、地域の課題について、近隣地区は市街地の空洞化が進み、高齢者世帯が多くなり心配なこと等の相談が寄せられ、相互の意見や要望を話し合う場となっている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域ケア会議に参加して実情を報告したり、他からの情報を得ている。また行政職員とはケアマネジャーの集まりにおいても、仲間として交流を持っている。市の担当者が事業所を訪問することもあり、行政、事業所の双方から日常的にやりとりをする関係ができている。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族へは法人の広報と、利用者個々の様子について写真入りで手書きのお便り、看護師からの健康面の報告などを定期的に郵送している。また家族が来所した際には本人の暮らしぶりを細かく伝えているが、遠方や忙しい家族の状況もあるため、手書きのお便りや電話でていねいに伝えることで信頼関係を築いている。	○	本人の状態が入居時から変化していく中で、それを家族が理解できない状況もある。事業所では家族の面会によって、理解がより深まると考えており、今後家族が集まる機会として懇親会を開催する予定である。家族の負担に配慮しながらも、多くの参加が得られることを期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	所内のポスト設置や、家族から要望等受付用紙を郵送してもらうような工夫を行い、会議で話し合ったうえで、運営に反映することとしている。これまでに、職員の顔が分かりにくいとの意見を受けて、お便りに職員の顔写真を掲載する等の対応をしている。また、職員が家族の心配事をよくきいてくれると好評が得られている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	当事業所の職員は併設の小規模多機能事業所と兼務する形態であるが、異動等は殆ど無く、多くの職員との馴染みの関係が図られている。法人内の異動や離職、採用に際しては勤務調整しながら、職員、利用者双方が馴染めるように配慮している。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症の勉強会はもとより、本年度は基本的な介護技術の習得を目的とした事業所内の勉強会を毎月実施している。加えて法人内の症例発表会や外部への研修に参加しており、研修時間には時間外手当を支給するなど法人の支援体制がある。	○	研修を通じて個々がスキルアップしていくことにより、スタッフ間でも他の職員に任せられるという信頼が高まり、長期的には職員の負担軽減につながるという意識が職員の意欲につながっている。職員個別のカリキュラムを検討していく予定であり、日常業務との両立等に配慮しながら、職員の学ぶ機会を今後も大事にして頂きたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の同業者と交流の機会を作り、情報交換をしている。また同業者との交流を通じて一緒に市内の祭りに参加したことで、グループホームが市民の身近な存在であることを周知する機会となった。さらに相互連携しながら、勉強会に発展させてサービスの向上を目指し取り組んでいきたいとしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に事業所を見学して、生活スペースを見ていただくこととしており、希望があれば体験利用を受け入れている。また入居後にはふるさと訪問として、利用者の自宅を訪問し、写真をとって会話の糸口にすることによって、職員との関係づくりやアセスメントに活かしている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と利用者が周囲に気兼ねなく1対1で話す機会を作り、本人の意思を尊重しながら過ごすように努めている。調理の際には味付けをお願いしたり、調理方法を教わっている。職員は利用者が「私がいるからやっていける」と実感できるような関わり方を心掛けている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメントを行い、また日常における利用者の言葉や表情から、一人ひとりの思いや生活の希望を確認するように努めている。なお、ふるさと訪問時の様子を資料化することで、利用者の以前の生活について理解を深めるとともに、アセスメントに有効に活かしている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	月2回のカンファレンスを行い情報を共有し、本人、家族と話し合い、ケアマネジャーと職員が共同してその人らしく暮らしていくための介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しが充分ではないとしながらも、状態に変化があった場合にはカンファレンスを行って見直しを図り、個別の介護日誌に記録して、申し送り等により情報共有している。またカーデックスに介護計画と介護日誌が挟み込んであり、計画や情報が見やすく整理されている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の「自宅を見に行きたい」、「郵便物を取りにいきたい」といった要望に応えて、外出を支援している。併設する小規模多機能の事業所と互いに協力して極力柔軟に対応している。さらに地域資源として、地域住民に対して災害や緊急時には、通所や宿泊を受け入れる体制があることを知らせている。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族等が希望するかかりつけ医となっていて、通院や受診の介助を行っている。家族等への報告は定期的に行うほか、必要に応じて電話で報告する等の対応をしている。隣接する医療機関との協力は良好で、勉強会の案内が届く事もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	実際に看取りを経験したことを振り返り、話し合う機会を持っている。外部研修に参加したテーマで、「あなたがあと1年と宣告されたら何をしますか？」を職員でグループワークし、死について考える機会を設けた。隣接する医療機関のバックアップがあるため、要望があればできるだけ応えていきたいとしている。	○	これまでの経験や学びを活かして、重度化や終末期に向けてできることから段階的に取り組むことを望む。また普段から本人や家族とのコミュニケーションを深めることを通して、終末期の方針を明確にして共有することを期待する。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は人前で本人のプライバシーに関することを話さないよう徹底している。利用者は職員の言葉に敏感で、記録物にも関心があるため、目に入らない場所に保管している。特に他の利用者に知られたくないことは本人と職員の間だけにとどめるよう細心の注意を払っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間以外は一人ひとりの体調やペースで生活できるように配慮している。入浴の時間や順番等、個々の希望を調整しながら支援している。また普段の過ごし方については、リビングでテレビを楽しむ人、部屋で歌謡曲を聴いてる人、携帯電話で家族と話す人など様々である。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に買い物して食材を選んだり、調理の味付けや食卓のセッティングをしたり、食事後の片づけの手伝いをお願いしている。また毎朝神棚に水とご飯をお供えする習慣を継続している。今後さらに利用者の力が発揮できる場面づくりをして、調理や食事を楽しむ支援をしていきたいとしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者一人ひとりの希望日時に合わせて入浴の対応を行っているほか、見守りや介助の職員は同性対応となっており、利用者が安心して入浴できるよう支援している。浴室にはリフトが設置され、ある程度重度の利用者への対応が可能である。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	これまでの生活歴や経験を活かしながら、利用者一人ひとりが食事の手伝いや洗濯物たたみ、布巾縫いなどの役割を担っている。また、利用者は散歩やドライブを楽しみにしており、外に出て気晴らしができる機会となっている。このほか、事業所で実践している学習療法は、利用者にとって生活の張り合いや意欲につながっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、美容院、散歩、ドライブ等、希望に応じて外出支援を行っている。また時には自宅に立ち寄ることもある。散歩時には、近所の家に咲いた花を見に行ったり、行き交う人と話をしている。遠野市出身の利用者でも、市内には行ったことがない場所も多く、市内ドライブが喜ばれている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	当事業所は2階にあり、エレベーターで自由に下りることができる環境であるが、玄関は夜間の戸締り以外は鍵をかけていない。運営推進会議で鍵をかけた方がよいのではないかとの意見が出されたが、鍵をかけないケアの意義を説明して理解を得ている。今後さらに、外出傾向のある利用者への対応を検討していくとしている。	○	利用者が一人で外出する状況を想定して、地域住民に見守りを今後お願いしていく予定である。地区放送の活用や、事前の情報共有とそれに伴う本人や家族の理解など、地域全体の見守り体制作りと併せて、具体的な内容を地域住民と一つひとつ検討していくことを期待する。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災報知機、スプリンクラー等が設置されているほか、避難訓練を実施する際には運営推進会議委員の参加協力があり、得られたアドバイスを参考としながら災害時に備えている。今後夜間想定の訓練も計画しており、裏手の川による水害や地震時の対策を検討していきたいとしている。	○	災害対策では特に近隣の協力が重要と思われるため、地域の理解や協力が得られる体制づくりに期待する。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人の介護施設の献立を参考とするとともに、利用者の要望を伺いながら献立を作成しており、食べられないものがある時などには法人の栄養士のアドバイスを受けている。毎日食事の摂取状況や水分摂取量を記録して、また毎月の体重測定の経過を参考として、栄養面の配慮をしている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	当事業所は2階にあるため周囲の見晴らしがよく、街の様子や遠方の山並みに四季の変化を感じることのできる環境である。またエレベーターがあるので1階との上り下りに負担はかからない。リビングはソファーや畳のコーナーがあり、冬場はコタツも設置している。オープンな台所は調理や後片付けの様子が直に感じ取れ、花や観葉植物をさりげなく飾るなど雰囲気づくりをしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活に必要な収納ケースやタンス、使い慣れたラジカセ等が持ち込まれており、家族の写真を並べたり、好みの歌手のポスターを壁に貼っている人がいる。また以前には部屋で金魚を飼っている人もいた。枕の方向を気にする場合には、ベッドの位置や方向を本人や家族と相談しながら配置している。		